

投稿論文を査読していると、自分自身の論文執筆方法について反省させられることがあります。主語と述語を正しく対応させているのであろうか、「てにをは」がおかしくないだろうか、同じ言い回しを繰り返していないだろうかなど、小中学校で学んだ文章作成を適切に行っているかが心配になります。それは読みやすい原稿と読みにくい原稿の二種類に接するからです。自らが書いた原稿の欠点はなかなか気がつきにくいものですが、他人の原稿の不備は気になって仕方がありません。査読原稿に可能な範囲で修正を加えるようにしていますが、修正箇所が多すぎるとお手上げです。

原著論文として投稿された原稿には優れたものがありますが、研究目的、検討方法、結果の表現方法、結果の考察、結論への到達などが明確でない原稿もみられます。単純でも構いませんが、正しくそして分かりやすい論理展開をしてある原稿は読みやすいです。逆に言えば、論理が飛躍したり不明瞭な原稿は大幅な修正が必要となります。

新鮮さも論文には欠かせません。ある疾患に対する腹腔鏡下手術について多数例の検討をした原著論文が投稿されました。執筆された先生のご苦労は大変であったと思いますが、同様の内容の論文はすでに多く発表されていたので不採用となってしまいました。最近はインターネットを用いた文献検索が容易にできるようになりましたので、投稿される前にもう一度論文の新しさを調べることが大切です。

これまでに私が指導した若い先生達には陥りやすい癖があります。カルテなどに記載する文章はキーワードの羅列に近く、完結した文章にならないことが多いのです。助詞を省略したり、体言止めを頻発させます。忙しい臨床では許容されますが、出版物ともなりますと正しい日本語を使いたいものです。

ある高名な日本人研究者の執筆した英文は、難しい文法や熟語が駆使されたものではなく、ほとんどが中学生程度の英語だそうです。つまり、医学系の論文では文学作品を目指すのではなく、新しい知見を論理的に分かりやすく表現することが英語でも日本語でも大切であるといえます。

本誌を日本語で書かれた内視鏡外科に関する日本一の雑誌にするために、多くの先生方に原稿を投稿していただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(小澤壯治)

日本内視鏡外科学会雑誌

(第15巻 第1号) 2010年2月15日発行・隔月刊

Journal of Japan Society for Endoscopic Surgery (Tokyo)

1部定価：会員には毎号送付されます。その他については、1部定価2,940円(本体2,800円+税5%)となります。

2010年 年々ぎめ予約購読料：17,160円(税込)(配送料：医学書院負担)

編集・発行：日本内視鏡外科学会(代表：北野正剛)

〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13 小石川アーバン4F 一般社団法人学会支援機構内

☎03-5981-6011 (Fax 03-5981-6012/E-mail: jses@asas.or.jp) (担当：佐々木、小山)

<http://www.asas.or.jp/jses/>

Published by Japan Society for Endoscopic Surgery, 4F, 5-3-13 Otsuka Bunkyo-ku, Tokyo, 112-0012, Japan

©2010, Printed in Japan

発売：株医学書院(代表：金原 優)(本誌担当：阿部、田村、安部) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

<http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/jses/>

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 (振替口座 00170-9-96693 番)

本誌編集室直通 ☎03-3817-5707 (Fax 03-3815-7802/E-mail: jses@igaku-shoin.co.jp)

販売部直通 ☎03-3817-5659・5660 (Fax 03-3815-7804)

印刷所 横山印刷株 ☎03-3622-6161 (Fax 03-3625-1591)

広告申込所 (有文京メディカル ☎03-3817-8036 (Fax 03-3817-8044))

本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

●原著

- 腹腔鏡補助下直腸癌手術症例の検討 野上 仁・他 新潟市民病院外科
超音波凝固切開装置のキャビテーションによる生体傷害作用の検討
..... 橋本俊介・他 千葉大学工学部メディカルシステム工学科
腹腔鏡下虫垂切除術の検討—臨床成績と医療経済からみた開腹手術との比較
..... 壺井邦彦・他 大阪府済生会野江病院外科

●症例報告

- 腹腔鏡下脾臓摘出術を施行した CA 19-9 産生脾嚢胞の 1 例 國重智裕・他 奈良県立医大消化器・総合外科
局手麻酔下にフレキシブル胸腔鏡 (LFT-240) を用い膿胸腔搔爬術を
施行した全身状態不良な膿胸の 1 例 大塩恭彦・他 独立行政法人国立病院機構南京都病院呼吸器外科
増大傾向を示す胃神経鞘腫に対し、腹腔鏡下胃部分切除が有効であった 1 例 岡本佳樹・他 加古川市民病院外科
腹腔鏡下に手術した再発子宮広間膜裂孔ヘルニアの 1 例 愛洲尚哉・他 済生会兵庫県病院外科
非反回下咽頭神経症例に対する内視鏡補助下甲状腺手術の経験
..... 大谷 裕・他 国立病院機構岡山医療センター乳腺甲状腺外科
腹腔鏡下に修復した白線ヘルニアの 1 例 榎本俊行・他 東邦大学医療センター大橋病院第 3 外科
虫垂腫瘍を疑い腹腔鏡下手術を施行した虫垂憩室症の 1 例 柴田智隆・他 新別府病院外科

●手術手技

- 胸腔鏡下手術における単回使用開創器を用いた気漏確認の簡便な方法 宮内善広・他 山梨大学第二外科

●私の工夫

- 腹腔鏡下前方切除術における直腸切離のための逸脱防止鉗子
(Doyen type rectal clasper) 濱田 円 高知医療センター消化器外科
ガスレス腹腔鏡下手術における腹腔内挿入鉤と手動ジャッキを用いた
新しい腹壁挙上器 笹川 剛・他 東京女子医大消化器病センター外科
腹腔鏡下胃手術における簡単な肝圧排方法 中村 毅・他 兵庫県立がんセンター外科
他に症例報告数編、ただし頁の都合により変更があります。ご諒承下さい。